

# 広丘西保育園と 広丘児童館の環境改善



中野 重則  
(清風クラブ)

◆広丘西保育園の現状は

**問** 近年の園児数の動向と本年度の入園希望者の状況は。

**答** 過去5年間の園児数は、定員130名に対して平均で117名と、横ばいで推移してきた。

平成28年度の入園希望者は41人で、そのうち25人は広丘西保育園に入園できたが、残りの16人は他の保育園に入園するという、依然として厳しい状況となっている。

◆広丘児童館の現状は

**問** 広丘児童館利用者は、希望通り利用できているか。

**答** 広丘児童館の利用希望登録者数は113人であるが、現在の施設規模では登録児童全員が利用するには困難であり、広丘支所2階の1部屋を間借りし、21人の児童が利用している。

◆両施設の飽和状態解決策は

**問** 広丘西保育園と広丘児童館は併設であるため飽和状態となっているが、この解決策は。

**答** 旧勤労青少年ホームを利用

用している現在の図書館広丘分館が、平成31年度に北部地域拠点施設の中に移転する

で、この跡地に新広丘児童館を建設することは、広丘小学校の敷地に隣接しており、利用児童の安全・安心という観点からも立地条件としては最適な場所と考えている。

平成29年度の次期中期戦略の策定においては、特定財源の確保と有利な起債の活用を図り、大型公共事業のバランスを考慮して事業化に向けた検討をしていく。



広丘児童館入口（右奥は広丘西保育園）

# 市長！ 線引き廃止の是非は



中村 努  
(公明党)

◆市街化調整区域の人口対策

**問** 市街化調整区域にも、売買や賃貸も可能な物件があるが、空き家バンクの登録はないか。

**答** 対象とはしない。

**問** 都市計画法三四条一項で住宅が連担している区域を指定し、規制を緩和できるが、区域指定はしないか。

**答** 住民との合意が困難であるので考えていない。

**問** 昭和46年に導入された線引き制度。時代状況から廃止しても無秩序な農地の開発は考えにくく、市街化調整区域の規制というデメリットばかりが残り、人口減少は更に進む。線引き制度廃止についての市長の考えは。

**答** 言われる通り、今廃止しても乱開発は起こりにくいと思うし、線引き廃止も考えたこともあった。しかし、今まで恩恵を享受してきた、いなくなったら即廃止というのはみっともない。廃止には相当なエネルギーを要し、人

員も必要なので躊躇している。県では、調整区域の規制のハードルを下げてきている。せっかく息子が帰ってくるのに、近隣に適地がなく他自治体

に家を建ててしまった事例を承知しており忸怩たる思いだ。県状況をよく理解したうえで、特認的な方法を考えることが無駄な労力を使わずに進めることになると思う。

◆県道の安全対策について

**問** 田川高校北のS字カーブが大変危険だが対策は。

**答** 事故も多発しており県でも認識している。なんらかの対策をしなければと考える。



市街化区域と調整区域の線引き